

## ○ 国の主な役割について

### (1) 基本的方針やアクションプランの策定

廃炉・汚染水対策の根本的な解決に向けた基本的方針や具体的なアクションプランを策定し、東京電力をはじめとする関係機関に対策の実施を促す。

### (2) 潜在的なリスクの洗い出しと予防的・重層的な対応策の検討

汚染水処理対策委員会などにおける専門的知見を活用し、潜在的なリスクの洗い出し、予防的・重層的な対応策の検討・策定・フォローアップを行う。

### (3) 現場の視点での廃炉・汚染水問題への対策の検討、工程管理等

「廃炉・汚染水対策現地事務所」により現場で生ずる問題点等を把握するとともに、「廃炉・汚染水対策現地調整会議」において問題点への対応策の検討、進捗確認、工程管理等を実施する。

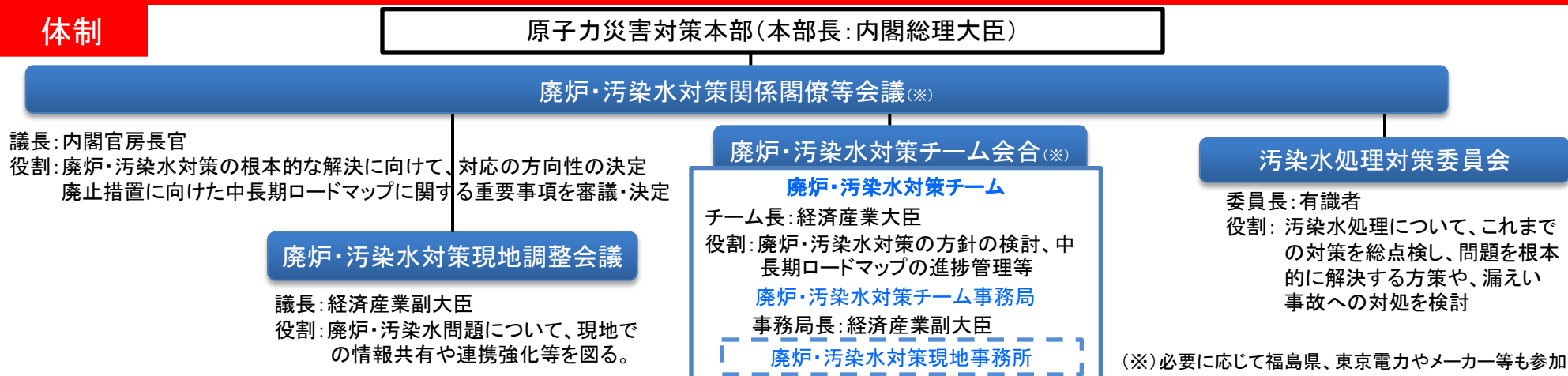
### (4) 財政措置

「凍土方式の陸側遮水壁の構築」や「より高性能な多核種除去設備の実現」など、技術的な難易度が高く、国が前面に立って取り組む必要のあるものについて財政措置を進める。

### (5) 国内外への情報発信

廃炉・汚染水問題の現状や対策の進捗等について、国際的な専門機関、海外メディアを含めた国内外の関係者に正確で分かりやすい情報発信を行う。

## 体制



## 1. 福島第一原発の現場状況、作業進捗の把握・確認

- ① 定期的に福島第一サイト内を巡回
  - ・毎週、サイト内を巡回。タンクエリアでの雨水対策や増設・高性能ALPSの建設状況を直接確認。
  - ・地下水バイパスの排出作業への立合いを実施。
- ② トラブル発生時に速やかに現場調査、対応・再発防止策を検討・指示

## 2. 現場における課題の把握、対応策の検討、工程管理

- ① 廃炉・汚染水対策現地調整会議(月1回)
  - ・課題毎の対応方針の検討、対応策の工程管理を実施。先月(5月)の会議では、タンク増設計画、滞留水の誤移送等のトラブル対応、東電の現場管理体制等について検討。
- ② 定例会合を通じた課題の整理、対応策の検討、工程管理
  - ・凍土式遮水壁、高性能ALPS、タンク増設計画等、重要プロジェクトの作業進捗について、本庁及び東電本店とともに進捗状況を確認、問題に対応。その他の課題も含め、課題ごとに東電等の関係者と、毎週、情報共有会議を実施し、工程管理。

## 3. 地元の自治体をはじめとした関係者への情報提供、コミュニケーション

- ① 中長期ロードマップ進捗状況等、福島第一原発の最新情報の提供
  - ・中長期ロードマップに則った廃止措置に向けた取組の進捗状況を、月1回、個別に関係市町村を訪問し説明。
- ② 漁業関係者等への情報提供
  - ・汚染水対策の方針や取組の内容について、県漁連、個々の漁協等に逐次説明。また、汚染水をめぐる新たな情報を漁協等に迅速に提供。
- ③ 住民の方々への情報発信
  - ・地元新聞(福島民報と福島民友)及び放送局(NHKと福島中央テレビ)において、海洋モニタリングの結果を情報提供。他のメディアに対しても同様の情報提供を依頼。
  - ・今後は、定期的にニュースレターを作成し、作業している人々の顔の見える形で住民の方々へ情報提供。
- ④ 廃炉・汚染水対策福島評議会の開催

## 4. 廃炉・汚染水対策に係る作業環境の課題把握

- 福島第一原発で作業を行っている企業との意見交換
  - ・福島第一原発で作業にあたる企業の現地事務所を訪問し、作業環境など現場での課題、要望を聴取。作業環境改善に

## ○廃炉・汚染水対策に係る国内外の叡智の活用

廃炉・汚染水対策は世界に前例のない困難な事業であり、国内外の叡智を結集し、世界に開かれた形で取り組んで行くことが必要。

昨年8月に設立され、国際的な研究開発、情報発信の窓口としての役割も果たすことが期待される国際廃炉研究開発機構（IRID: アイリッド）や、海外の関係機関等と連携しつつ、廃炉・汚染水対策を進めている。

### (1) 廃炉・汚染水対策に係る技術情報の公募等

IRIDを通じて、廃炉・汚染水対策に関する技術情報の公募を実施。国内外から、汚染水対策については780件（うち約3分の1が海外からの提案）、廃炉対策については約190件（約4割が海外からの提案）の技術情報の提供をいただいた。

【汚染水対策に関する技術情報の提案件数】

| 募集分野                                | 提案件数 |
|-------------------------------------|------|
| ①汚染水貯留（貯留タンク、微小漏えい検出技術等）            | 206  |
| ②汚染水処理（トリチウム分離技術、トリチウムの長期安定的貯蔵方法等）  | 182  |
| ③港湾内の海水の浄化（海水中の放射性Cs、Sr除去技術等）       | 151  |
| ④建屋内の汚染水管理（建屋内止水技術、地盤改良施工技術等）       | 107  |
| ⑤地下水流入抑制の敷地管理（遮水壁施工技術、フェーシング技術等）    | 174  |
| ⑥地下水等の挙動把握（地質・地下水データ計測システム、水質分析技術等） | 115  |
| その他（①～⑥に該当しないもの）                    | 34   |



汚染水対策については、寄せられた技術情報を参考に、技術的難易度が高いと考えられる以下5つの技術について、平成25年度の補正予算を活用した検証事業（汚染水処理対策技術検証事業）の公募を実施しているところ。

- 海水浄化技術
- 土壌中放射性物質捕集技術
- 汚染水貯蔵タンク除染技術
- 無人ボーリング技術
- トリチウム分離技術

公募期間：  
平成26年3月24日  
～5月19日  
(現在、審査中)

公募期間：  
平成26年5月15日  
～7月17日

また、廃炉対策についても、廃炉の代替工法について、実証事業に向けたフィージビリティスタディ等の公募を6月中旬頃に予定している。

## (2) 事故収束及び廃炉に係る海外からの技術提供

福島第一原発での現場作業等の実施のため、海外企業の設備を導入。屋内外のモニタリングや、汚染水中の放射性物質除去などに活用されている。

キュリオン社(米国):  
セシウム除去装置(Kurion)



エネルギーソリューションズ社(米国):  
多核種除去設備(ALPS)



プツマイスター社(独国):  
コンクリートポンプ車(原子炉建屋への注水)



アイロボット社(米国):  
内部調査用小型ロボット



リアクト社(英国):  
線量測定装置カメラ(汚染分布調査)



## (3) 国際原子力機関 (IAEA) によるレビュー ミッション

福島第一原発の廃炉に向けた取組について、昨年11月25日(月)～12月4日(水)に、IAEA 調査団(レビューミッション)を受け入れ国際的なレビューを受けた。

レビューの報告書は本年2月13日に公表され、報告書の中では、汚染水問題発生後の日本の積極的な対応・姿勢が評価されている。

## (4) トリチウム水タスクフォースにおける海外 有識者招聘

汚染水処理対策委員会の下に設置したトリチウム水タスクフォースにおいて、福島第一原発の汚染水を高性能多核種除去設備(ALPS)で処理した後に残るトリチウム水の扱いに関する総合評価を実施。

評価に当たり、スリーマイル島原子力発電所事故など、海外事例の知見を活用するため、海外から有識者を招聘し、意見交換を実施している。



出典：IAEAホームページ



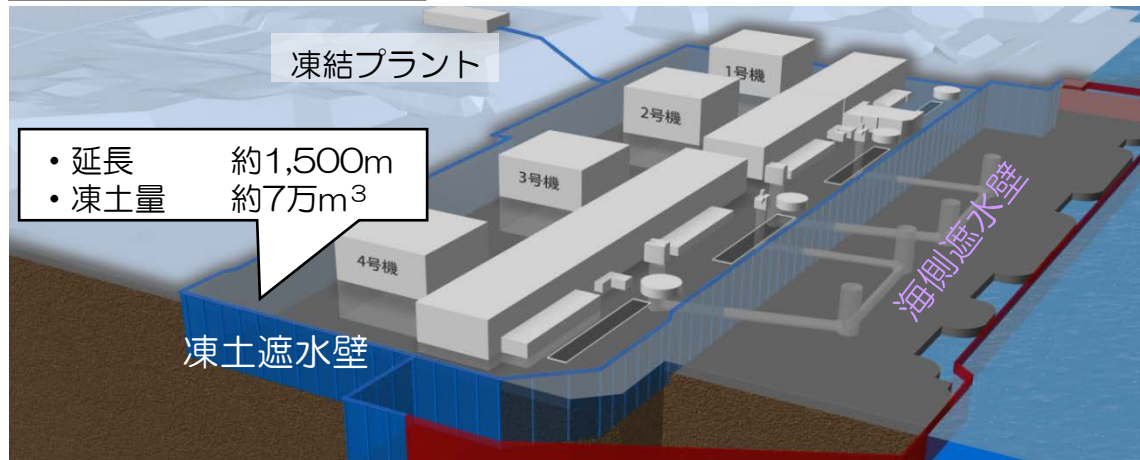
スリーマイル島原子力発電所

# 凍土方式の陸側遮水壁の取組状況

◇ 凍土壁の技術的課題の解決に向けて、フィジビリティスタディを昨年8月9日から実施。地下水の流速が速い場合の検証等、技術的な実証を実施。敷地内において小規模遮水壁の凍結を3月14日に開始、凍土の閉合を確認済(P7参照)。

◇ 1～4号機を囲む凍土遮水壁構築の本体工事に6月2日に着工。

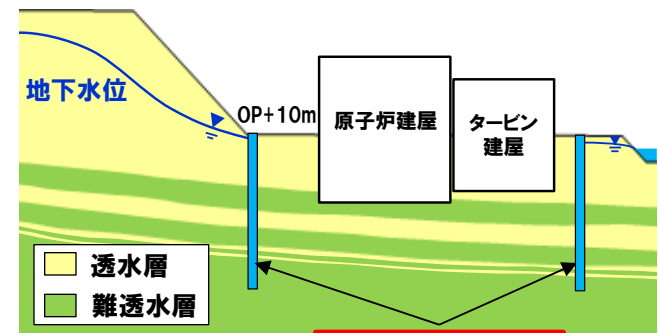
## 凍土壁の全景及び断面



## 凍土壁関連予算

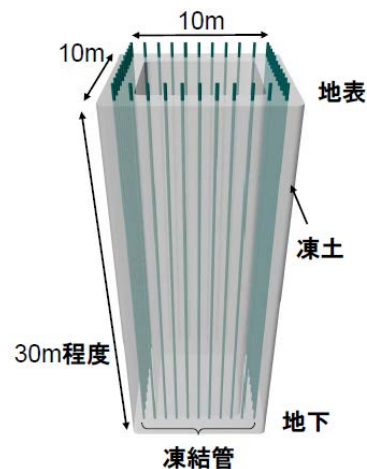
25年度予備費 : 136億円

25年度補正 : 183億円



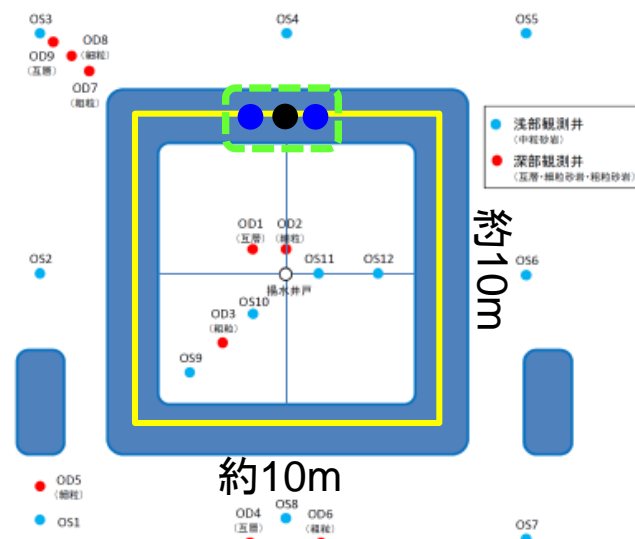
凍土壁(深さ約30m)

## フィジビリティスタディ(小規模遮水壁)

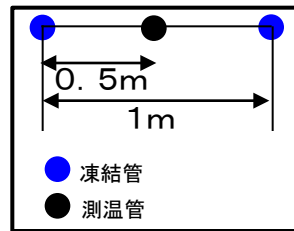


# 凍土方式の陸側遮水壁の取組状況

◇ 地盤温度や地下水位等のモニタリング結果及び揚水試験(小規模凍土壁内側で地下水位を低下させることで凍土壁内外の地下水位の変化をモニタリング)から、小規模凍土壁の閉合及び遮水性を確認。

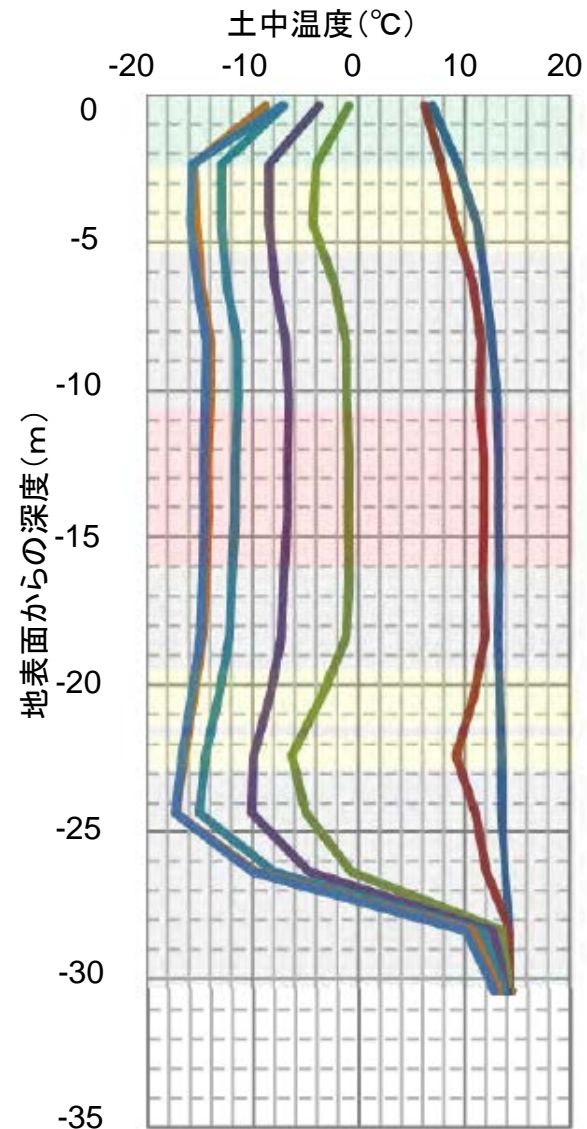
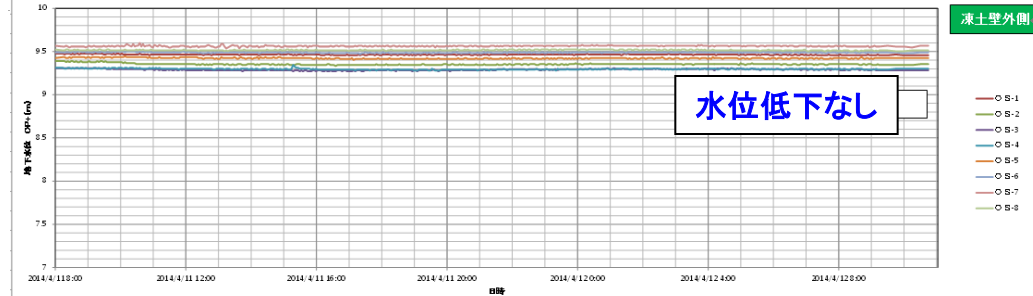
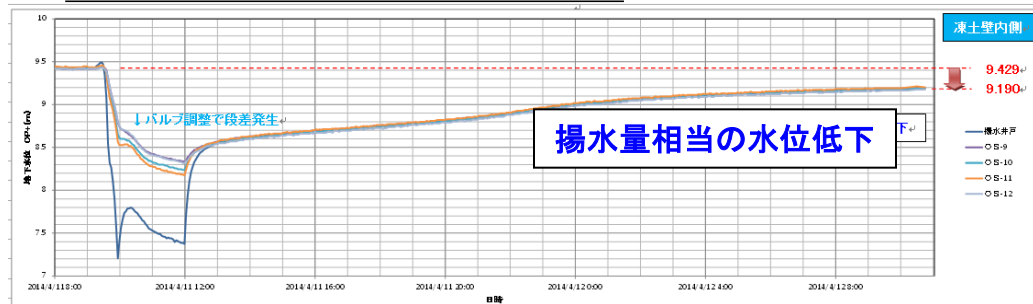


凍結管と測温管の位置関係 (左平面図緑枠)



- 2014/03/14 13:00:00
- 2014/03/15 13:00:00
- 2014/03/25 13:00:00
- 2014/04/05 13:00:00
- 2014/04/16 13:00:00
- 2014/04/28 13:00:00
- 2014/05/09 9:00:00

※黄色枠上に約1m間隔で凍結管が配置



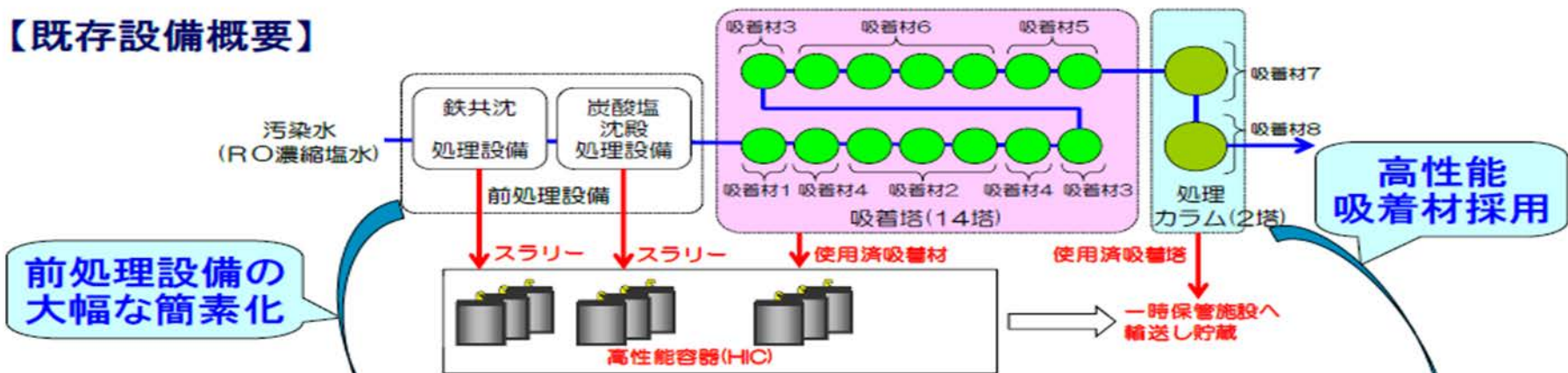
# 高性能の多核種除去設備の取組状況

◇高性能多核種除去設備は汚染水中の62核種を告示濃度限度以下まで低減することに加え、保管や処分が必要となる水処理二次廃棄物の大幅な減量を実現することを目標に設置。

- ・1日あたりの処理量は500m<sup>3</sup>以上
- ・発生する廃棄物の量はALPSの1/20以下

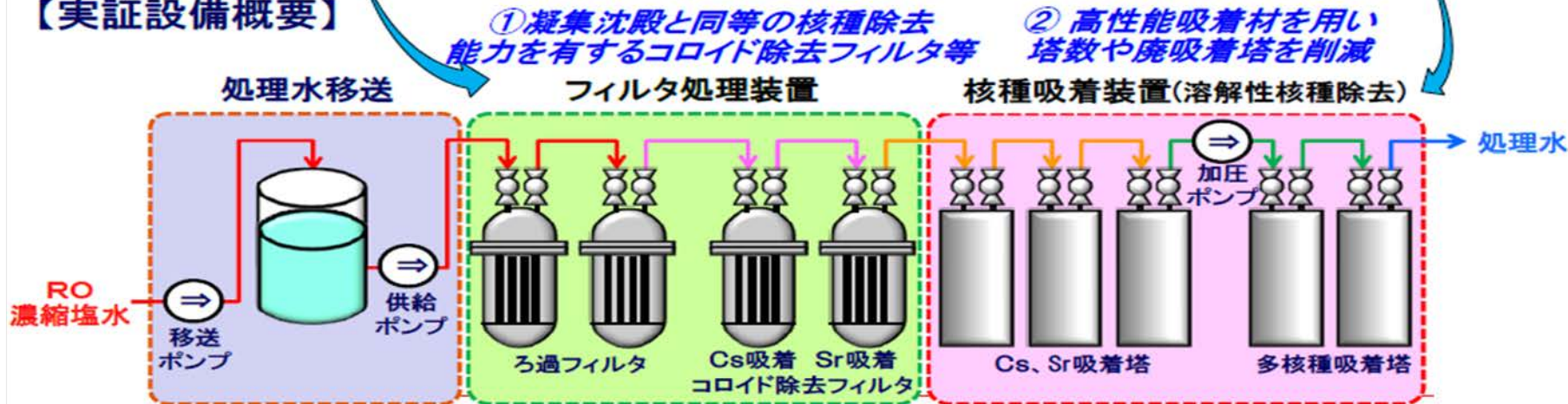
◇ラボ試験によりフィルタや吸着材が62核種を除去できる条件(吸着材の種類や通水条件)を確認し、現在はより実機に近い1/10スケールの検証試験装置の設計製作中。

## 【既存設備概要】



前処理設備の大幅な簡素化

## 【実証設備概要】





# 「原子力損害賠償支援機構法の一部を改正する法律【原賠・廃炉機構法】」の概要

## 1. 背景

- (1) 東京電力福島第一原発の廃炉・汚染水対策については、中長期を見据えた持続可能な体制を構築する必要がある。
- (2) 国が前面に立って、廃炉をより着実に進められるよう、国内外の叢智を結集し、東電が行う廃炉事業を技術的・専門的観点から支援するとともに東電の実施体制を確認すべく、新たな支援体制を整備することが必要。その際、廃炉と賠償の関連性も考慮し、その連携を強化しつつ対応する必要がある。

## 2. 法律の概要

- (1) 原子力損害賠償支援機構を改組し、事故炉に関する廃炉関係業務を追加することで、専門人材を結集し、予防的・重層的な取組を持続的に進めるための体制を整備する。(「原子力損害賠償・廃炉等支援機構」(以下、「原賠・廃炉機構」))に改称)
- (2) 具体的には、専門技術的な助言・指導等、効果的な研究開発の推進、廃炉実施体制に対する国の監視機能の強化等を実施。

## 3. 措置事項の概要

### A. 廃炉に関する専門技術的な助言・指導等

専門家が事故炉廃炉作業の状況・課題を把握し、中長期廃炉計画に関するリスク評価、具体的作業計画の確認・進捗管理など、専門技術的観点から助言・指導等を行う。

### B. 廃炉に関する効果的な研究開発の推進

事故炉に係る廃炉研究開発を、実際の廃炉全体計画とより整合的な形で実施することができる体制を整備。

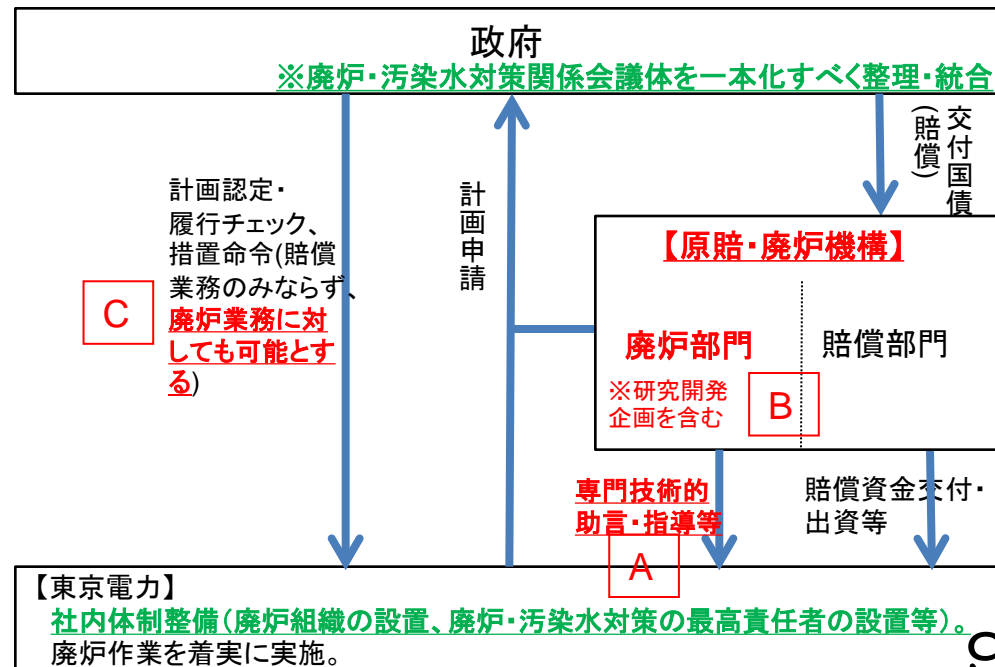
### C. 廃炉実施体制に対する国の監視機能の強化

事業者と新機構が政府に共同申請する特別事業計画に、廃炉事業の状況や実施体制に係る記載も新たに求め、廃炉等に関する資金・人員等が十分に確保されるよう、確認・監視。  
(仮に不十分な場合には是正のため措置命令を発動)

※ 5月14日：国会で成立、5月21日：公布、公布から3月以内：施行

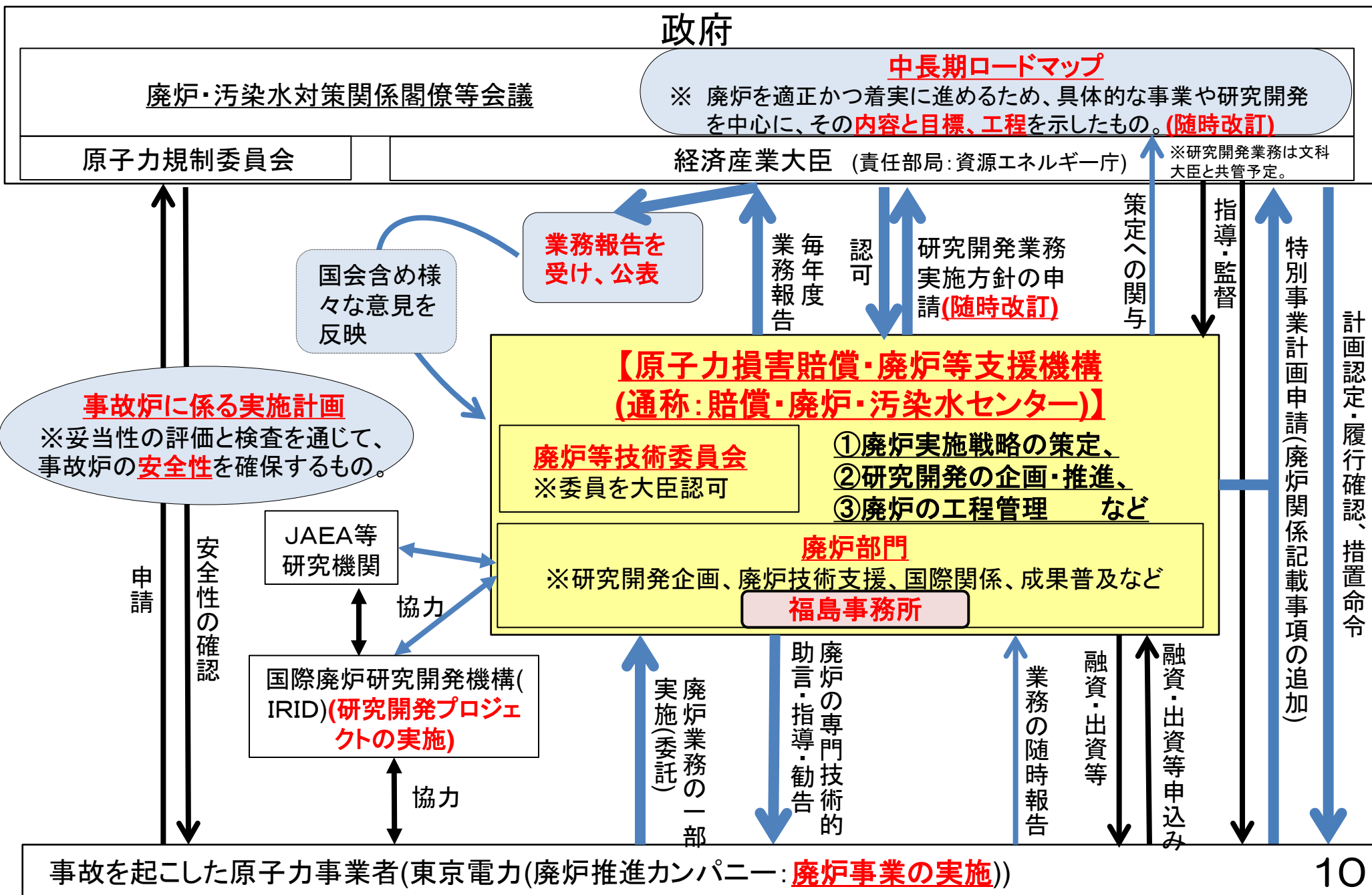
## 【東電福島第一原発の廃炉体制のイメージ】

※赤字記載事項が、体制整備事項(本法案以外での措置は緑字)



# 廃炉・汚染水対策推進のための体制強化

※青矢印を新たに追加

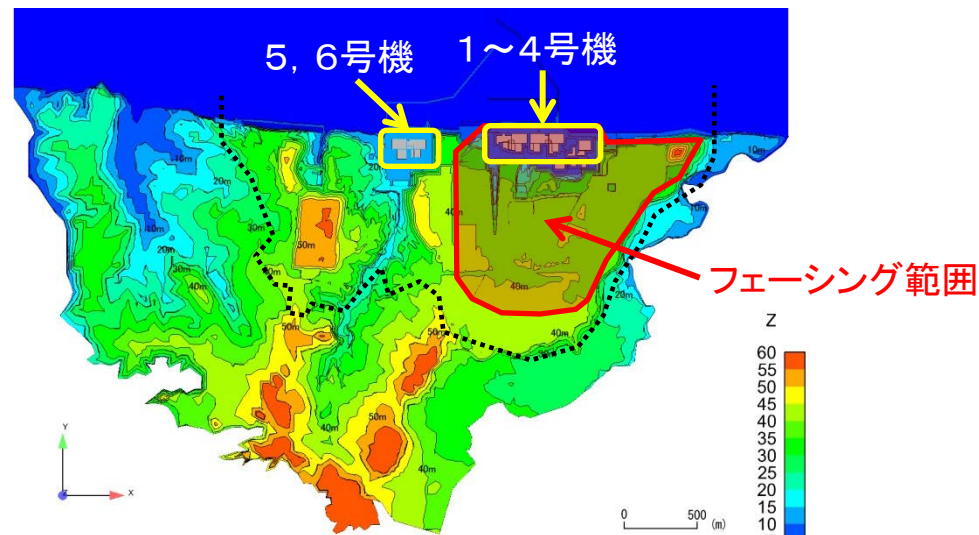


## 雨水由来の地下水への追加対策について

- ◇国の汚染水処理対策委員会での検討(地下水流動シミュレーション等)の結果、建屋に流入する地下水の大半は、敷地やその周辺に降る雨水が起源であることを確認。
- ◇建屋への地下水流入量を減らすため追加対策として、昨年12月に「広域的な舗装(表面遮水)」又は「追加的な遮水とその内側の舗装」を実施することを決定した。
- ◇これを受け、汚染水処理対策委員会等で具体的な方策を追加検討した結果、広域的な舗装と地下水バイパスを併用することが効果的であり、効果の早期発現に向け今年度中に広域的な舗装を概ね完成させることとした。
- ◇また、各対策の実施状況によってさらに追加対策が必要となる場合に備え、追加的な遮水対策(薬液注入や遮水壁)についても設計等の準備を進めることとした。

### 【フェーシング範囲概略】

・・・ 敷地境界線(概略)



フェーシング範囲面積: 約1.45km<sup>2</sup>

## 地下水バイパスに関する検討状況について

- ◇ 建屋内への地下水流入量を減らすため、建屋山側で数百トン程度の地下水をくみ上げ、海に放水（バイパス）する対策。数十トン～最大百トン程度の建屋流入抑制効果が期待される。
- ◇ くみ上げた地下水の水質確認を行い、法令告示濃度の40分の1に設定した運用目標を満たしていることを確認し、5月21日より放水を開始。（5月21日に541トン、5月27日に641トン、6月2日に833トンを放水）
- ◇ 運用目標を遵守するため、東電による測定だけでなく、日本原子力研究開発機構及び東電と資本関係のない複数の分析機関が定期的に水質を分析・確認。また、国の現地事務所職員が放水作業に立ち会う。放水後に行った周辺海域のモニタリングでは、水質に有意な変化がないことを確認している。

<地下水バイパスの配置図>



<排水における運用目標>

単位：ベクレル/リットル

|                      | セシウム<br>134 | セシウム<br>137 | 全ベータ | トリチウム  |
|----------------------|-------------|-------------|------|--------|
| 運用目標                 | 1           | 1           | 5    | 1,500  |
| 法令告示濃度※1             | 60          | 90          | 30※3 | 60,000 |
| WHO飲料水<br>水質ガイドライン※2 | 10          | 10          | 10※3 | 10,000 |

- 測定の結果、運用目標以上となった場合は、一旦停止し、運用目標未満(全ベータにおいては1ベクレル/リットル)になるように対策。
- 運用目標以上が測定された貯留タンク水は、浄化等を行い、運用目標未満(全ベータにおいては1ベクレル/リットル)であることを確認の上、排水を実施。

※1 告示濃度の水を毎日約2リットル飲み続けた場合でも、年間被ばく量約1ミリシーベルト

※2 飲料水摂取による年間被ばく量約0.1ミリシーベルト

※3 全ベータと相関性の高いストロンチウム90の値

## 1. モニタリング情報の提供

- ・JAEA((独)原子力研究開発機構)等が、地下水バイパスでくみ上げた水の水質について、定期的に確認。
- ・地元新聞(福島民報と福島民友)及び放送局(NHKと福島中央テレビ)において、海洋モニタリングの結果を情報提供。

## 2. 関係省庁の食堂において福島・被災地の食材利用

- ・平成25年11月25日～29日:3省で実施。試験操業で獲れたヤナギダコを使用した特別メニューの提供
- ・平成26年3月10日～14日:14府省庁で実施。被災3県(宮城県、福島県、茨城県)の水産物を使用した特別メニューを提供。

## 3. 福島産品の取り扱いについての産業界への働きかけ →被災地物産フェアの実施:5社(3月)、2社(4月)、3社(5月)

- ・平成25年6月28日:日本経済団体連合会と日本商工会議所に対し、被災地産品の消費拡大に関する要請文書を発出。
- ・平成25年9月27日:流通業界10団体に対し、被災地産品の販売促進に関する要請文書を発出。
- ・平成26年2月21日:日本経済団体連合会の復興支援説明会において、企業マルシェの開催や被災地産品の利用促進等を要請。

【経産省の食堂で提供したメニューの例 [左:タコチャーハン、右:イカ刺]】

【企業マルシェの様子】



## 風評対策について②

### 4. 学校給食での取り扱いに関する指導

- ・平成26年2月19日：全都道府県に対し、各市町村教育委員会や所轄学校において風評被害の拡大に繋がりにくい自粛等を行わないよう、指導文書を発出。

### 5. 食品中の放射性物質対策に関する説明

- ・食品中の放射性物質の基準値や放射性物質による健康への影響、国や自治体の検査方法、生産現場での取組などについての説明会を全国各地で開催。（地方自治体と連携）

### 6. 市場関係者への説明会の開催

- ・消費地の流通業者等に対し、水産物の調査体制や調査結果、水産物と放射性物質との関連などについて説明会を実施。

### 7. 国際社会への情報発信

- ・平成25年11月25日～12月4日：IAEA（国際原子力機関）による廃炉に向けた取組についてのレビューミッションを受け入れ。  
→ 平成26年2月13日：IAEAの最終報告書の公表。汚染水問題発生後の日本の対応・姿勢が評価されている。
- ・平成25年12月以降：日本政府よりIAEAに対し廃炉・汚染水対策について定期的に報告。IAEAの評価も加えられた上で公表。
- ・地下水バイパスの運用に際し、在京の外交団等に対して、放出前の地下水分析結果及び放出後の海水モニタリング結果などの情報提供を実施（平成26年5月20日以降随時）。また、外交団を対象とした説明会を開催（5月30日）。

### 8. 諸外国・地域の輸入規制の緩和・撤廃に向けた働きかけ

- ・各国・地域の要人等との会談において、首脳・閣僚等ハイレベルで規制の緩和・撤廃を申し入れ。
- ・各国・地域毎の事情に応じ、先方政府当局に対する情報発信と規制緩和・撤廃に関する申し入れのラインをきめ細かく本省と在外公館の間で打ち合わせ、在外公館から申し入れを実施。
- ・国際会議において科学的根拠に基づく対応の必要性を強調し、各成果文書にも反映。
- ・海外産業界向けのPR事業や招へい事業等を実施。
- ・各国・地域における日本産食品に関する理解促進のため、政府関係者・専門家らの招へい等の事業を実施。（シンガポール実施済み（外務省、3月。5月の日・シンガポール首脳会談にて、先方から規制緩和の方針表明あり。）、その他も検討中。） 14

# 廃炉に向けたまちづくりについて

## 福島・国際研究産業都市構想(イノベーション・コースト)研究会の取り組み

廃炉関連の拠点施設等を中心に、原発被災地域において取り組むべき地域産業政策の方向を明らかにするため、赤羽原子力災害現地対策本部長の私的懇談会として「福島・国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想研究会」を設置し、産学官の有識者で、今後の研究開発拠点、産業拠点、人材育成拠点、地域開発の在り方等を検討し、平成26年6月を目途に、地域経済の将来像、必要な取組み、支援策等について提言をとりまとめる予定。

### 委員名簿(敬称略)

|        |                              |
|--------|------------------------------|
| 赤羽 一嘉  | 原子力災害現地対策本部 本部長(経済産業副大臣)     |
| 内堀 雅雄  | 福島県 副知事                      |
| 清水 敏男  | いわき市 市長                      |
| 渡辺 利綱  | 双葉地方町村会 会長                   |
| 菅野 典雄  | 相馬地方町村会 会長                   |
| 松本 幸英  | 福島県原子力発電所所在町協議会 会長           |
| 桜井 勝延  | 南相馬市 市長(南相馬ロボット産業協議会)        |
| 小沢 喜仁  | アカデミア・コンソーシアムふくしま(福島大学副学長)   |
| 角山 茂章  | 会津大学 教育研究特別顧問                |
| 浅間 一   | 東京大学 工学系研究科精密工学専攻教授工学博士      |
| 森山 善範  | 日本原子力研究開発機構(JAEA)福島技術本部 理事   |
| 山名 元   | 技術研究組合 国際廃炉研究機構(IRID) 理事長    |
| 石崎 芳行  | 東京電力福島復興本社 代表                |
| 伊藤 仁   | 福島再生総局(復興庁 統括官)              |
| 高橋 康夫  | 環境省福島環境再生本部 本部長              |
| 小池 剛   | 東北地方整備局 局長                   |
| 佐々木 康雄 | 東北農政局 局長                     |
| 守本 憲弘  | 東北経済産業局 局長                   |
| 野田 耕一  | 資源エネルギー庁廃炉・汚染水対策担当室 現地事務所 所長 |
| 徳増 秀博  | 一般財団法人日本立地センター 専務理事          |
| 熊谷 敬   | 原子力災害現地対策本部 副本部長             |

### 開催実績と主な議題

- 第1回 平成26年1月21日  
◇研究会の進め方  
◇研究会における検討事項案 等
- 第2回 平成26年2月17日  
◇産学連携拠点のあり方について 等
- 第3回 平成26年3月7日  
◇ロボット開発・実証等について 等
- 第4回 平成26年4月14日  
◇産学連携・人材育成について 等
- 第5回 平成26年5月19日  
◇エネルギー関連産業・農林水産業について 等
- 第6回 平成26年6月9日  
◇構想骨子案の提示・検討 等



# 港湾内における海水モニタリングの状況 (H25年の最高値と直近の比較)

『最高値』→『直近(5/26-6/2採取)』の順、単位(ベクレル/リットル)、検出限界値以下の場合はND(検出限界値)と標記

セシウム-134: 3.3 (H25/10/17) → ND(1.2) 1/2以下  
 セシウム-137: 9.0 (H25/10/17) → ND(0.92) 1/9以下  
 全ベータ : **74** (H25/ 8/19) → ND(14) 1/5以下  
 トリチウム : 67 (H25/ 8/19) → 2.0 1/30以下

セシウム-134: 3.3 (H25/12/24) → ND(1.3) 1/2以下  
 セシウム-137: 7.3 (H25/10/11) → ND(0.98) 1/7以下  
 全ベータ : **69** (H25/ 8/19) → ND(14) 1/4以下  
 トリチウム : 68 (H25/ 8/19) → ND(1.4) 1/40以下

セシウム-134: 4.4 (H25/12/24) → ND(1.1) 1/4以下  
 セシウム-137: 10 (H25/12/24) → ND(1.1) 1/9以下  
 全ベータ : **60** (H25/ 7/ 4) → ND(14) 1/4以下  
 トリチウム : 59 (H25/ 8/19) → 3.4 1/10以下

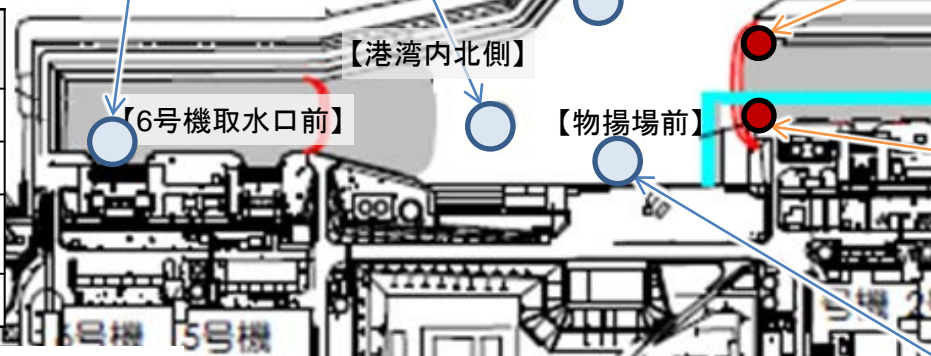
セシウム-134: 3.5 (H25/10/17) → ND(1.2) 1/2以下  
 セシウム-137: 7.8 (H25/10/17) → ND(1.1) 1/7以下  
 全ベータ : **79** (H25/ 8/19) → ND(14) 1/5以下  
 トリチウム : 60 (H25/ 8/19) → ND(1.4) 1/40以下

セシウム-134: 5.0 (H25/12/2) → ND(1.0) 1/5以下  
 セシウム-137: 8.4 (H25/12/2) → ND(1.1) 1/7以下  
 全ベータ : **69** (H25/8/19) → ND(14) 1/4以下  
 トリチウム : 52 (H25/8/19) → 2.8 1/10以下

セシウム-134: 2.8 (H25/12/2) → ND(1.7) 7/10以下  
 セシウム-137: 5.8 (H25/12/2) → ND(1.8) 1/3以下  
 全ベータ : **46** (H25/8/19) → ND(22) 1/2以下  
 トリチウム : 24 (H25/8/19) → ND(3.5) 1/6以下

セシウム-134: 32 (H25/10/11) → 4.1 1/7以下  
 セシウム-137: 73 (H25/10/11) → 10 1/7以下  
 全ベータ : **320** (H25/ 8/12) → **66** 1/4以下  
 トリチウム : 510 (H25/ 9/ 2) → ND(120) 1/4以下

|                           | 法令濃度<br>限度 |
|---------------------------|------------|
| セシウム134                   | 60         |
| セシウム137                   | 90         |
| ストロンチウム90<br>(全ベータ値と強い相関) | 30         |
| トリチウム                     | 6万         |



セシウム-134: **89** (H25/10/10) → 14 1/6以下  
 セシウム-137: **190** (H25/10/10) → 41 1/4以下  
 全ベータ : **1,400** (H25/11/ 7) → **200** 1/7  
 トリチウム : 4,800 (H25/11/ 7) → 630 1/7以下  
 (埋立により測定終了したためH26年3月の値)

セシウム-134: 5.3 (H25/8/ 5) → ND(1.8) 1/2以下  
 セシウム-137: 8.6 (H25/8/ 5) → ND(2.1) 1/4以下  
 全ベータ : **40** (H25/7/ 3) → ND(22) 6/10以下  
 トリチウム : 340 (H25/6/26) → ND(1.7) 1/200以下



# 港湾外近傍における海水モニタリングの状況 (H25年の最高値と直近の比較)

(直近値  
5/26- 6/3採取)

|                           | 法令濃度<br>限度 |
|---------------------------|------------|
| セシウム134                   | 60         |
| セシウム137                   | 90         |
| ストロンチウム90<br>(全ベータ値と強い相関) | 30         |
| トリチウム                     | 6万         |

単位(ベクレル/リットル)、検出限界値以下の場合はNDと標記し、( )内は検出限界値、ND(H25)は25年中継続してND

## 【港湾口北東側(沖合1km)】

セシウム-134: ND (H25) → ND(0.61)  
セシウム-137: ND (H25) → ND(0.64)  
全ベータ : ND (H25) → ND(16)  
トリチウム : ND (H25) → ND(1.6)

## 【港湾口東側(沖合1km)】

セシウム-134: ND (H25) → ND(0.63)  
セシウム-137: 1.6 (H25/10/18) → ND(0.78)1/2以下  
全ベータ : ND (H25) → ND(16)  
トリチウム : 6.4 (H25/10/18) → ND(1.6) 1/4以下

## 【港湾口南東側 (沖合1km)】

セシウム-134: ND (H25) → ND(0.46)  
セシウム-137: ND (H25) → ND(0.46)  
全ベータ : ND (H25) → ND(16)  
トリチウム : ND (H25) → 1.8

セシウム-134: ND (H25) → ND(0.76)  
セシウム-137: ND (H25) → ND(0.68)  
全ベータ : ND (H25) → ND(16)  
トリチウム : 4.7 (H25/8/18) → ND(1.6)1/2以下

## 【北防波堤北側(沖合0.5km)】

## 【港湾口】

セシウム-134: 3.3 (H25/12/24) → ND(1.3) 1/2以下  
セシウム-137: 7.3 (H25/10/11) → ND(0.98)1/7以下  
全ベータ : **69** (H25/ 8/19) → ND(14) 1/4以下  
トリチウム : 68 (H25/ 8/19) → ND(1.4)1/40以下

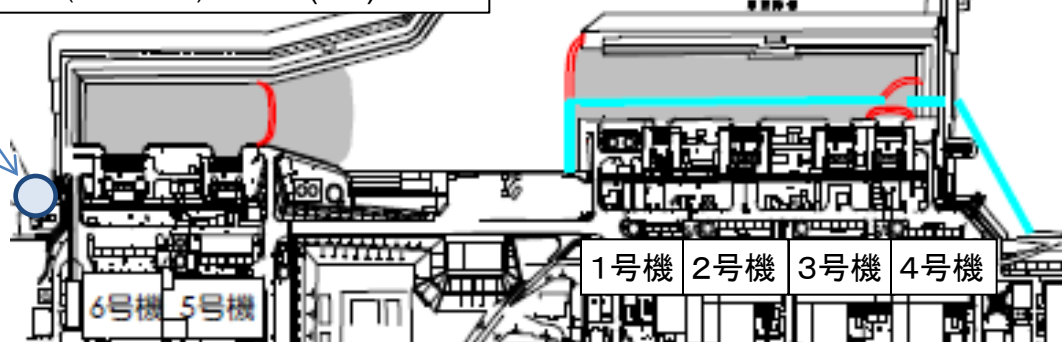
## 【南防波堤南側 (沖合0.5km)】

セシウム-134: ND (H25) → ND(0.72)  
セシウム-137: ND (H25) → ND(0.91)  
全ベータ : ND (H25) → ND(16)  
トリチウム : ND (H25) → ND(1.6)

## 【5,6号機放水口北側】

セシウム-134: 1.8 (H25/ 6/21) → ND(0.68)1/2以下  
セシウム-137: 4.5 (H25/ 3/17) → 1.0 1/4以下  
全ベータ : 12 (H25/12/23) → 15  
トリチウム : 8.6 (H25/ 6/26) → ND(1.7) 1/5以下

セシウム-134: ND (H25) → ND(0.60)  
セシウム-137: 3.0 (H25/ 7/15) → ND(0.56)1/4以下  
全ベータ : 15 (H25/12/23) → 12 8/10  
トリチウム : 1.9 (H25/11/25) → ND(1.7)1/10以下



海側遮水壁  
シルトフェンス

## 【南放水口付近】

6月5日  
までの東電デ  
ータまとめ

出典: 東京電力ホームページ 福島第一原子力発電所周辺の放射性物質の核種分析結果

<http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f1/smp/index-j.html>